

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	中野ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物のイラストを見せながら動物の鳴き声について問いかけました。「この動物は何か知っている?」「この動物はなんて鳴くか知っている?」子どもたちは、知っている動物の名前や鳴き声をジェスチャーを交えながら答えていました。また、英語での名称や鳴き声が流れる絵本を使用し、英語バージョンの鳴き声も覚え、楽しむ様子が見られました。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。発話が難しい乳児クラスでも日本語、英語の《オノマトペ》を体験します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者ととも英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

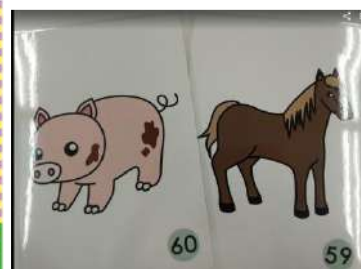
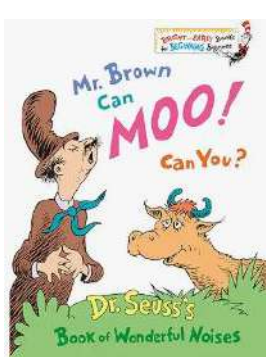
【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペカード

* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。 6月

*2歳児クラス：保育者や英語講師と一緒に日本語で「ゆかいな牧場」を歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育中に一緒に歌ったり、曲を流したりしたことで自然と歌を覚えて口ずさんでいた。保育者がジェスチャーをつけたことで動物と鳴き声一致しやすくなった。ブタは「ブーブー」の印象だったが、「オイン」と知るとその後は「オイン」と真似ていた。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。 7月

*2歳児クラス：保育者や英語講師と一緒に英語で「Old McDonald」を歌いながら踊る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日本語とは違う鳴き声もあり、戸惑う姿も見られたが、音楽に合わせて鳴き声を真似ていた。身振り手振りもあったことで分かりやすく、絵本でも講師の鳴きまねを見て真似したり、覚えた鳴き声を意欲的に言ってみたりしながら楽しんでいた。保育者が豚の鳴き声で「ブーブー」と言うと、「オインオインだよ」と教える子もいた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う 8月

*2歳児クラス：保育者や英語講師と一緒に英語で動物の絵カードを見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師が動物の絵カードを見せると「うし」「うま」「ぶた」など日本語で答える。講師が英単語を言うと、その後に続いて「cow」「horse」などポーズをしながら単語を真似する。「Old McDonald」の歌を思い出し、「一緒だね」と保育者に話す子もいた。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。英語と日本語のどうぶつなきごえを比較した後、本当の動物のなきごえを図鑑を通して皆で聴く。9月

*2歳児クラス：保育者が英語の絵カードを使って、動物のクイズをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者が「これなんだ？」と日本語で問いかけると、「pig」「cow」「horse」など、英単語とポーズで答えていた。他の動物は英語でなんというのかの問いかけに興味をもち、室内でいつも読んでいる動物図鑑を英語講師と見るのを楽しんだ。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。 10月

*2歳児クラス：どうぶつなきごえ図鑑を使って、本当の鳴き声を聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

馬は「ヒヒーン」、羊は「メー」と日本風の鳴き声に聞こえる子が多かった。牛は「モー」と「ムー」で日本語と英語の両方に聞こえた。豚の鳴き声は特徴的で「ブーブー」でも「オインオイン」でもない聞こえ方に感じ、再現するのは難しそうだった。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語で問いかけても、使っているものが英語のレッスンのものであると、発言は英語になっていた。子どもたちの中で「日本語」「英語」は大きな違いはなく、状況に応じて使い分けているようである。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う 10月

*2歳児クラス：保育者が英語の絵カードを使って、乗り物のクイズをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乗り物は普段目にする機会が多く馴染みがあるため、反応が良かった。名称を答える子もいたが、自転車は「チリン チリン」車は「ブーン」電車は「ガタン ゴトン」などと音で表現する子も多かった。飛行機や船などは音が聞き馴染みがないのか、擬音語で表現するのが難しそうだった。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う 11月

* 2歳児クラス：レッスン中に乗り物の絵カードを使う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師が乗り物のオノマトペを言い、子どもがカードをタッチして当てるゲームを行う。「Vroom vroom!」など日本語と発音が似ているものは当てることができていた。ヘリコプターの「Chop-chop-chop」は「お風呂みたいだねー」と話していた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語での表現は自分から発信することが多かった。英語講師が英語のオノマトペを言った際は、声よりも動作で判断している様子だった。分からない場合でも、子どもなりに情報を整理しようとしていた。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。 12月

* 2歳児クラス：保育者や英語講師と一緒にオノマトペ絵カードで遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

イラストから状況を読み取ったり、オノマトペで表現するのは難しかったようだが、保育者のヒントを得て、単語を聞くと納得した様子だった。「もぐもぐ」「Munch munch」「ねばねば」「Sticky」など単語を繰り返しながら、言葉の音感を楽しんでいた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2歳児はイラストからオノマトペを思いつくことは難しかったが、袖をまくることを「まくまく」、拍手を「パンパン」など生活に身近な単語であることを感じた。英語のオノマトペも音感がよく、リズムカルで普段から聞いているとより子どもから発信されると感じた。

【次への問い】イラストだけでなく、動きや実体験と結びつけるとオノマトペはどのように広がるだろうか。英語のオノマトペも遊びや歌、リズム遊びに取り入れると、子どもの発信はどのように変わるだろうか。